

【生薬名】木香 *SAUSSUREAE RADIX*

【起源植物】インドモッコウ *Saussurea lappa*



【科名】キク科 *Compositae*

【別名】蜜香、唐木香、インド木香、広木香

【薬用部分】根

【主成分】精油、アルカロイド(サウスリン)、タンニン、樹脂、イヌリン

【薬性】気味は辛苦温、帰経は脾大腸に属す

【効能】●行気止痛

●整腸によって疼痛・下痢を止める

●健胃薬として嘔吐、下痢、腹痛などの胃腸薬に応用する

●木香は芳香性理気の薬物で、気滞を行らし、脾胃の消化不良、脾胃の気の塞り、通利不良などに用い、腹満、腹痛、泄痢後重などを治す

●滞気を散じ、諸気を調え、胃気を和し、肺気を泄す。(張元素)

●木香には葡萄状球菌、乾燥菌、大腸菌、チフス菌などに対して強い抗菌作用がある

●サウスリンには平滑筋弛緩作用があり、気管支平滑筋に対してもアドレナリンよりも弱いが類似の弛緩作用を示す

●

【出典】●木香. 味辛温. 生山谷. 治邪氣. 辟毒疫温鬼. 強志. 治淋露. 久服不夢寤寤寐. (神農本草經上品)

●木香 微温、滞を散じ胃を和し、諸気を能く調え、肝を行らし、肺を瀉す。(薬性歌)

●療傷食、吐瀉、嘔逆、翻胃、泄瀉、痢疾、消食、安胎、心痛、腹痛、胸腹間滞気、疝癖、癥塊、和胃、進食。(一本堂薬選)

【備考】●単独で用いる事はなく貧血、不眠、神経症などが主訴の処方に配合

【処方例】●帰脾湯、加味帰脾湯、参蘇飲、女神散、木香散